

“不思議の鷹・ツミ”の謎に挑んだ第4回・東京の環境を考えるシンポジウム 「北多摩の自然“武蔵野”の自然の今と昔・そして未来」の報告

4月19日(日)の午後、久しぶりの渋谷区立千駄ヶ谷区民会館での室内例会。今回は「東京郊外・北多摩」に焦点をあて、東京ではここが主繁殖地の「ツミ」が切り口となりました〔写真〕。

かつてはその生態が皆目わからず、“幻の鷹”とまでいわれた鳥ですが、1980年代半ば、武蔵野の森に姿を現すと、大きな声で鳴くので目立ち、人をあまり恐れず、街路樹にも営巣するという、予想もしなかった展開となっています。

シンポジウムは、そんな不思議な“武蔵野のタカ”の全貌を明らかにするのが大テーマ。



餌の受け渡し時のツミ ©H.Kawachi

東京の環境を考えるシンポジウム

第4回 東京郊外・北多摩の自然

“武蔵野”の自然の今と昔・そして未来

日時：2015年4月19日(日) 13時30分～16時

会場：渋谷区立千駄ヶ谷区民会館・集会所

主催：日本野鳥の会東京/NPO法人バードリサーチ/都市鳥研究会

《プログラム》

【総合司会】川沢祥三

基調講演

1. 武蔵野のツミの昔と今
NPO法人バードリサーチ 植田睦之氏
2. 写真で見える市街地でのツミの繁殖のようす
日本野鳥の会東京 吉田 巧氏
3. 東京および近郊での営巣状況の推移
都市鳥研究会 川内 博氏

パネルディスカッション

【司会】川内 博

ツミはなぜ武蔵野で繁殖をするようになったのか
～鳥が変わったのか？武蔵野が変わったのか？ ツミ繁殖の謎を追う～

パネリスト：植田睦之氏、吉田 巧氏、御手洗望氏(青梅自然誌研究グループ)、栗林菊夫氏(いたばし野鳥クラブ)

基調講演のトップは、日本のツミ研究の第一人者、植田睦之氏(NPO法人バードリサーチ理事長)による「武蔵野のツミの昔と今」で、北多摩地区での実態やカラス・オナガとの関係が語られました。次いで、自宅の窓からツミの営巣状況が観察できたという吉田 巧氏(日本野鳥の会東京・野鳥写真講座講師)による昭島市での「写真で見える市街地でのツミの繁殖のようす」がシャープな映像で紹介されました。そして、首都圏でツミの生態を追っている川内 博氏(都市鳥研究会代表)による、「東京および近郊での営巣状況の推移」ということで、埼玉・神奈川での状況も報告されました。後半のパネルディスカッションには、前出の講演者のほか、御手洗 望氏(青梅自然誌研究グループ主宰)と栗林菊夫氏(いたばし野鳥クラブ会長)が加わり、参加者全員36名で論議しました。その中心テーマは“ツミはなぜ武蔵野で繁殖するようになったのか”。

今回は答えは出ませんでした、たくさんの情報を共有でき、これからの新展開が期待できる集まりとなりました。

〔左は当日配布のレジユメ表紙〕

研究部6月例会のご案内 月例探鳥会20年間のデータに挑む

日時：2015年6月12日(金)午後6時30分開場、午後7～9時

場所：日本野鳥の会東京・事務所〔新宿区新宿5-18-16 新宿伊藤ビル3階〕

定員：先着15名 参加費：無料

内容：当会主催の月例探鳥会の20年間(1995～2014年)の記録が電子化されました。そこで、これからそのまとめ・解析に入る予定です。今回は、そのワーキンググループ作りの準備会となります。興味ある方はご参加ください。